

1	組 織 名 称	Advancing open standards for Information Society (OASIS) http://www.oasis-open.org/jp/		
2	分 類	活動目的	デファクト標準化	対象分野 (1) サービス(EC関連) (2) サービス(インターネット関連)
	技 術 M A P	活動エリア(注1)	0	活動技術 (注2) 0
3	目 的	OASISは、グローバルな情報社会のオープン標準を開発、統合および採用を推進する非営利国際コンソーシアムである。コンソーシアムは、セキュリティやクラウドコンピューティング、Webサービスなどの標準策定により、低コスト化、イノベーションの触発、国際市場の拡大、技術の自由な選択権の保護等を可能とする。OASISは1993年に設立して以来、世界100カ国の600以上の団体や個人会員を含む5,000人以上がOASISに参加している。		
4	組 織	<p>理事会(11名)の下に、Technical Advisory Board、Committeeがある。Committeeは次の20のカテゴリにわかれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Security ・Smart Grid ・Cloud ・SOA ・messaging ・Emergency Mgmt ・Privacy/Identity ・Content Technologies ・Government/Legal・Web Service ・Supply Chain ・Healthcare ・ Localisation (地域化(ローカリゼーション)) <p>出版物、ソフトウェア・インタフェース等が、開発された標準の母国語を使用しない環境、特に他の国や文化で採用されることを可能にするための標準を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Messaging ・Privacy/Identity ・Security (セキュリティ) <p>e-ビジネスとWebサービス・アプリケーションに必要なセキュリティ標準を開発する。また、アプリケーション・レベルの仕様だけではなく、基盤となる仕様も定義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SOA <p>サービス指向アーキテクチャ(SOA)標準化は、ワークフロー、トランザクション調整、オーケストレーション、コラボレーション、素結合処理、ビジネス・プロセス・モデリング、そしてアジル(迅速)コンピューティングをサポートするその他の概念に注力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Standards Adoption (標準採用) <p>特定の業界やユーザ、政府、ベンダー、業界グループ、そしてその他の標準化団体のコミュニティを一体化するフォーラムを提供する。既存の標準を評価し、要件を明確化し、ギャップを認識し、重複を認め、指針を発行し、相互運用性を推進する。関連仕様をOASIS技術委員会(と他の組織)に情報を提供し、必要な新たな取り組みを勧告する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Supply Chain (サプライチェーン) <p>サプライチェーンの内部で購買、保守、製造といった機能をサポートする広範囲な取り組みを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Sustainability ・ Web Services (Webサービス) <p>Webサービスは、アプリケーションがXMLを基にした標準プロトコルを使用して、プラットフォームやプログラミング言語に依存せずに情報を交換することを可能とする。特定のコミュニティや業界全体で使用される実装標準のみならずWebサービスを可能にする多くの基盤標準を定義する。</p> <p>http://www.oasis-open.org/committees/tc_cat.php</p>		

		87のCommitteesがActiveである: http://www.oasis-open.org/committees/
5	参加資格	あらゆる企業、組織、個人を対象。 会員種別と年会費: FOUNDATIONAL SPONSOR \$50,000 (従業員数 500人以上) \$48,000 (従業員数 100-500人) \$46,000 (従業員数 10-100人) \$46,000 (従業員数 10人未満) \$44,000 (研究機関、政府機関など) https://www.oasis-open.org/join/categories-dues Benefits Matrix for Organizational Members: https://www.oasis-open.org/join/benefits-matrix
6	主要メンバー (2017年6月現在)	Board of Directors: 11名 AT&T, Oracle, Fujitsu, Microsoft, IBM, Saint Mary's University, CA, SAP, Huawei,他 ・Foundational Sponsors: 3団体 CRYPTOSOFT, IBM, Microsoft, ・Sponsors: 62団体 (日系2 Fujitsu, NEC) ・Contributors: 193団体 (日系5 Cannon, Fuji Xerox Ltd., Konica Minolta, Nara Institute of Science and Technology, Nanzan Univ.) ・その他 合計: 275団体 (日系10)
7	他団体・組織との 関係	OASIS Technical Liaisons: ・ANSI ・IEC /ISO/ITU, UN/ECE ・UN/CEFACT ・ISO TC154 ・ISO/IEC JTC1/SC34 ・Interoperability Summit ・NIST ・LISA (https://www.oasis-open.org/liaisons) 関連標準化 ISO/IEC 19464, ISO/IEC 20922, ISO/IEC 20802, ISO/IEC 26300, ISO/IEC 1984
8	TTC活動との 関連性	■TTCの専門委員会活動と関係あり セキュリティ専門委員会、IoTエリアネットワーク専門委員会、Network Vision専門委員会、電子情報健康管理SWG □なし
10	設立時期	1993年 SGML Openとして設立。1998年、OASISに名称変更。
11	本部所在地	25 Corporate Drive Suite 103 Burlington, MA 01803-4238 USA
12	関連標準化技術	https://www.oasis-open.org/standards
13	備考	Bylaws: https://www.oasis-open.org/policies-guidelines/bylaws
14	更新年月	2017年10月

(注1)活動エリアは以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 2: モバイル系領域を中心に活動を実施
- 1: モバイル系領域の活動を主に、固定系領域の活動も実施
- 0: モバイル系、固定系の両領域にまたがって活動実施
- 1: 固定系領域の活動を主に、モバイル領域の活動も実施
- 2: 固定系領域を中心に活動を実施

(注2)活動技術は以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 3: APL(アプリケーション)領域の活動を実施

- 2: APL領域の活動を主に、MDL(ミドルウェア)領域の活動も実施
- 1: APLとMDLの両領域の活動を実施
- 0: MDL領域の活動を実施
- 1: NW(ネットワーク)領域の活動を主に、MDL領域の活動も実施
- 2: NW領域の活動を実施
- x: 該当せず等

(注3) 日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注4) 「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会やアドバイザリーグループの活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名、アドバイザリーグループ名と関連している部分等を記載する。